

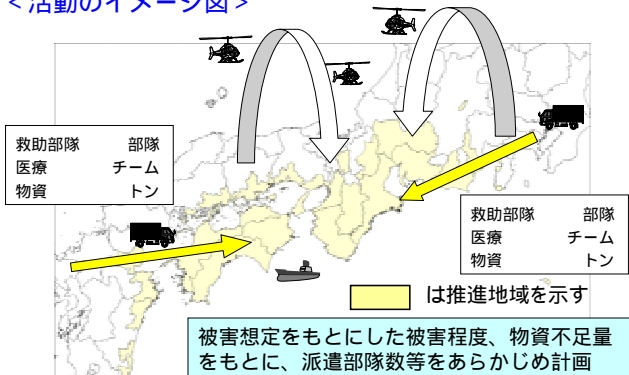
# 「東南海・南海地震応急対策活動要領」に基づく具体的な活動内容に係る計画の概要

被害想定等をもとに、あらかじめ地域ごとの派遣内容、必要量等を計画

発災直後から、計画に基づき派遣の準備や物資の調達を開始

救助、医療等の応急対策の緊急実施。被害状況等の情報に応じ活動内容を修正

## <活動のイメージ図>



## <被害想定概要>

|             |                  |
|-------------|------------------|
| 全壊棟数        | 約36万棟            |
| 死者数         | 約1万8千人           |
| 重傷者数        | 約2万人             |
| 避難所<br>避難者数 | 約500万人<br>(1週間後) |

(朝5時のケース)

## 物資調達

主なものに限って記載  
物資調達量は発災後1週間分

徳島県へ  
飲料水 約2,400 t  
食料 約280万食  
育児用調整粉乳 約1.1t  
毛布 約5.1千枚  
おむつ 約2.0万枚  
簡易トイレ 約770基

高知県へ  
飲料水 約3,700 t  
食料 約460万食  
育児用調整粉乳 約1.5t  
毛布 約6.4万枚  
おむつ 約6.8万枚  
簡易トイレ 約1,600基

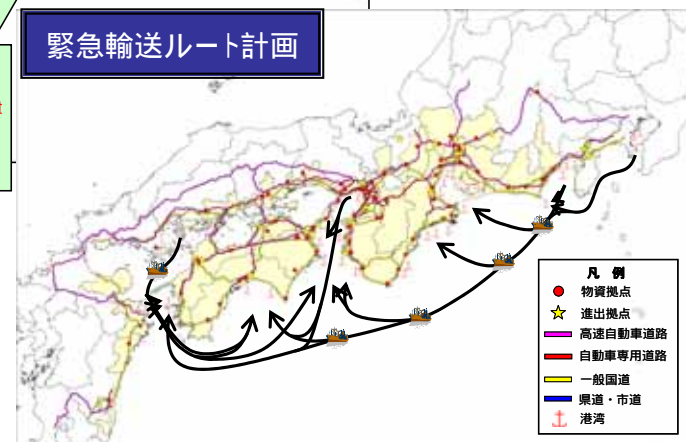
和歌山県へ  
食料 約410万食  
育児用調整粉乳 約1.2t  
毛布 約2.9万枚  
おむつ 約6.1万枚  
簡易トイレ 約1,000基

三重県へ  
食料 約770万食  
育児用調整粉乳 約2.9t  
毛布 約4.0万枚  
おむつ 約9.1万枚

静岡県へ  
食料 約540万食  
育児用調整粉乳 約2.9t  
おむつ 約5.1万枚

愛知県へ  
飲料水 約27,000 t  
食料 約2,300万食  
育児用調整粉乳 約8.6t  
おむつ 約5.2万枚  
簡易トイレ 約4,900基

## 緊急輸送ルート計画



## 応援部隊の派遣

応援部隊の派遣数は最大値

この他に、長野、岐阜、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、岡山、広島、香川、愛媛、大分、宮崎の各府県に、合計2,300人派遣

徳島県へ  
警察庁 710人  
消防庁 1,280人  
防衛省 2,400人  
合計 4,390人

高知県へ  
警察庁 2,730人  
消防庁 2,940人  
防衛省 8,100人  
合計 13,770人

和歌山県へ  
警察庁 1,830人  
消防庁 2,960人  
防衛省 6,500人  
合計 11,290人

三重県へ  
警察庁 2,390人  
消防庁 3,280人  
防衛省 4,700人  
合計 10,370人

静岡県へ  
警察庁 2,540人  
消防庁 2,860人  
防衛省 11,600人  
合計 17,000人

愛知県へ  
警察庁 2,100人  
消防庁 9,930人  
防衛省 8,000人  
合計 20,030人

全般支援 42,800人  
(派遣場所を予め特定しない部隊)

派遣規模(合計)  
121,950人

## 広域医療搬送

岡山空港  
広島西飛行場  
広島空港  
防府飛行場  
高松空港  
松山空港  
福岡空港  
長崎空港  
大分空港  
熊本空港  
宮崎空港

小松飛行場  
美保飛行場  
福岡空港

搬送目標患者数  
584人

名古屋飛行場  
三重大学  
宮川ラブリバー公園  
あすたむらんど徳島  
高知大学  
宿毛市総合運動場

医療チームの必要数  
217チーム  
DMAT派遣可能数  
109チーム  
(不足は救護班等で充足)

人間基地  
羽田空港  
厚木基地  
松本空港  
小松飛行場  
伊丹空港  
八尾空港

新千歳空港  
仙台空港  
羽田空港

● :被災地内広域搬送拠点  
青字:医療チーム参集拠点  
赤字:被災地外広域搬送拠点